

……はあ

(もう1週間も経つけど、全然呪いが解ける気配はない……やっぱり、本当の事を話さないと解けないんでしょうか)

(彼は私の事、ただの幼馴染みとしか思ってないものね
私ばかり、彼の事を好きで……彼からしたら、呪われた友人を助けたいとか、それくらいにし
か思ってない)

(誰でもいいから癒せばいいんじゃないなくて、愛する人を癒して、その人から愛されないといけな
いなんて……
どうして、こんな呪いを受けちゃったんでしょうか……)

(私はもうずっと前から、彼の事を愛していた。
そんな彼がせっかく町に帰ってきてくれたのに……私は、本当の事さえ伝えられないで、優しさ
に甘えてる)

……このまま私の呪いが解けなかったら、ずっといてくれるかも、なんて…

ん？

……あれって、もしかして……！

(彼と……女の人！？
そういえば、この前の戦いで魔物のボスを倒したのが噂になってたから……
あんな風に綺麗な人に声をかけられても、おかしくはないですよね……)

……嫌、だな……

(彼だって、私にずっと付き合っているのは嫌ですよ。
所詮見た目は子供だし……あんな風に綺麗な女の人がいたら、付き合うかも……)

っ……！

……はあ

(……あとは寝るだけなのに、さっきの光景が頭から離れてくれない……
彼はあの後、あの女の子と何を話したんだろう……)

え？

あ……はい、ちょっと待ってください！

どうかしました？

……え？

そ、そんな…辛そうにしてなんかない、ですよ…

うっ……うう、うっ……

ご、ごめんなさっ……な、泣くつもりなんて、なかったのに……

っ、うう、ふっ……ぐすっ、ぐすっ……

ぐすっ、ぐすっ……す、すみません……ううっ……

っ違、違うんです……！

呪いが解けない事、よりっ……

わ、私っ……君と、一緒にいられなくなるかもって、考えて……そうしたら……っ

そうしたら……すごく不安になって、苦しくてっ……！

こんな事、君に言うつもりはなかったのに……

君は冒険者だから、いつか町を出て……

それで、私みたいに呪われたりしてない女の子と家庭を築くのかも、とか……思ってしまったんです、私……

ごめんなさい……私……私、ずっと君の事が好きでした……

昔からずっと、君を1人の男の人として見ていたんです……

き、きもちわるい、ですよ……！

君はずっと真剣に私の呪いを解こうとしてくれてたのに、私、ずっと、君の事、そういう目で見て……っ！

ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさ——

ッ！？

あ、あのっ……どうして、っ……？

……え？

君も……私の事を……？

そ……そんなの、嘘、です……

君は優しいから、私の気持ちに付き合ってくれてるだけで……

だって、私なんか……本当の事も言えないし、見た目だって子供で……

本当に……いい、んですか？

私……呪いが解けなくて、ずっとこのままかもしれないのに…

君に迷惑だっていっぱいかけるかも…

ふふっ……君がそこまで言うのなら、信じます
私と……一生、一緒にいてください……っ

ん、っ……！
ちゅ、ん…ん、んう…ちゅ…う

はあっ……初めてのキス……君と出来て、良かった……

ドキドキして、ちょっと恥ずかしくて……
でも、幸せになれる……もしかしたら、キスにも癒しの力があるかもしれませんね……

……もっと、してみます？

んっ……んう、ううっ……ちゅ……

は、あっ……んっ、う……ちゅ、ちゅっ……ふぁ、ふっ……！
んっ、んっ……ちゅ、ちゅ、ちゅっ……ふぁ、ふっ……くちゅ、くちゅっ…

んんっ……！
ちゅ、ちゅっ……ふぁ、ふうっ……んっ、んう、んっ……！
ちゅ、ちゅっ……はあっ、んっ、んっ……！

はあっ、はあっ、はあっ……
口の中、じんじんします……君、上手ですけど……やっぱり、他の女の子とした事があるんですか……？

……ふふ、じゃあ、初めて同士ですね、私たち

あの……もっと、いろんなところにキスしてみてもいいですか？
口だけじゃなくて……ほっぺとか、手とか…

えへへ……ありがとうございます。じゃあ……

ん、っ……ちゅ、ちゅっ……ちゅ、ちゅ、ちゅっ……
ふぁ、ふっ……んっ、ちゅ、ちゅっ……ちゅ、ふうっ、んんっ……ちゅっ……

……耳かきした時も、呪文を唱えた時も……君がすごく気持ち良さそうにしてたから
耳にもキス、したくなっちゃいました……だめでしたか？

ん、っ……ちゅ、ちゅっ……ちゅ、ちゅ、ちゅっ……
ふぁ、ふっ……んっ、ちゅ、ちゅっ……ちゅ、ふうっ、んんっ……ちゅっ……

ふふっ……じゃあ、こっちの耳にも、しちゃいます……

ちゅっ……ちゅ、くちゅっ……ふぁ、はあっ……んう、んっ……
ちゅ、ちゅっ……ちゅぱ、ちゅぱ……んっ、んうっ……ちゅっ……はあっ……

ん、っ……ちゅ、ちゅっ……ちゅ、ちゅ、ちゅっ……
ふぁ、ふっ……んっ、ちゅ、ちゅっ……ちゅ、ふうっ、んんっ……ちゅっ……

耳に唇がぶつかっただけでピクピクして、可愛いですね…
ふふっ。ねえ、次は……私に、キスしてもらえませんか……？
は……んっ、んっ……ちゅ、ちゅっ……ふぁ、うううっ……！
んっ、ちゅ、ちゅく、ちゅくっ……ふぁ……！

ちゅっ、ちゅっ……れろ、れろっ……ちゅぱ、っ！
くちゅくちゅっ……はああっ、あ、んっ……！ちゅ、ちゅっ……

ふううっ……んっ、んあ、あっ……！
ちゅ、くちゅくちゅっ……ふぁ、れろ、れろっ……んっ、んっ、んっ……！

はあっ……ふーっ、ふーっ……んっ、んっ

つぶぁ！……はあっ、はあっ……きもちい……

……夢みたい……君とこんな風にくっ付いて、いっぱいキスをして……
夢なら、覚めないでほしいです……

ふふ……本当に現実なんですよ
じゃあ、私が朝になっても夢だって思わないように、今日はここで一緒に寝てくれませんか？

手を握って……離さないで？
夢の中でも、一緒にいてください……

ん……ベッド、狭くないですか？
子供用のベッドだから、君の足が出ちゃうかも……

ふふ、強がりなのはいいですけど、風邪は引かないようにしてくださいね
それじゃあ……おやすみなさい

……ん……

……ふふっ

……すー、すー……すう、すう……

すう…スー…すう…すう、スウ…

スウ、スウ…すー、すー…